

多自然川づくり取り組み事例

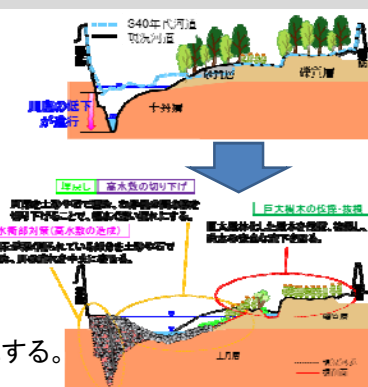
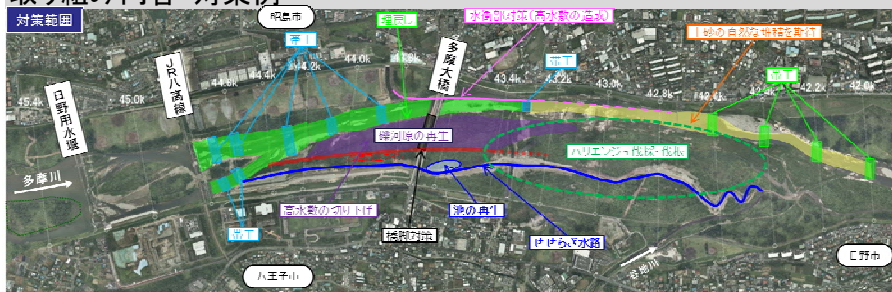
タイトル：多摩大橋周辺における治水と環境の調和した川づくり	
水系/河川名：多摩川水系 多摩川	河川分類：大河川
河川の流域面積：1240km ²	整備計画流量：3800m ³ /s(W=1/20) セグメント：1
事業：その他	事業開始年度 平成25年度
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出	
工法(主な)：掘削(高水敷)、置土(土砂投入)、魚道、落差工、帯工等の整備、樹木伐採、除根	
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催	

背景・課題、目標設定

多摩川中流域に位置する多摩大橋周辺では、滞筋(低水路)が固定化し、それに伴い河床低下及び局所的な洗掘による河川管理施設や横断工作物の安全性の低下、高水敷の樹林化に伴う流下能力の低下が課題となっている。また、環境面においても、河川の二極化(高水敷の陸地化及び低水路の深掘れ)により、多摩川中流域の特性である礫河原環境が減少し、樹林化した高水敷にハリエンジュなどの外来種が繁茂し、植物の多様性の減少が課題となっている。

このままでは、自然の営力による河床高の回復や河川環境の改善は期待できず、放置すれば堤防や横断工作物の安全性は低下し続け、生態環境(礫河原、植生、湿地)の多様性も減少し続けるため、治水・環境の共通課題である滞筋の固定化と深掘れを解消する対策を実施している。

取り組み内容・対策例



①埋戻し・高水敷の切り下げ・礫河原の再生

河床を土砂や石で埋め、右岸側の高水敷を切り下げることで、幅広く浅い流れにする。また、礫河原の再生を図る。

②帯工の設置

河床を土砂や石で埋めるとともに帯工を設置し、土砂の移動を制限することで河床を安定させる。

③巨大樹木の伐採、抜根

樹林化した樹木を伐採、抜根し、洪水の安全な流下を図るとともに、本来の多摩川らしい草地環境の再生を図る。

④池の再生・せせらぎ水路

工事中の魚道の役割を果たすせせらぎ水路を新設し、地下水の涵養等により湿潤環境の再生を図る。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

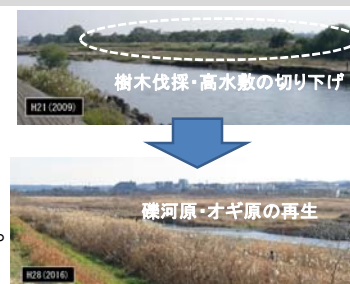
(①礫河原の再生・③川らしい植生の形成)

- ・樹木伐採により砂礫地へと復元し、冠水1回を経て現在砂礫地を維持している。
- ・1年目：オオブタクサの生育を広範囲に確認したが、2年目：概ねオギ群落が復元。

(④湿潤環境の再生、せせらぎ水路)

- ・平成27年9月出水において、せせらぎ水路から越流した水が池沼付近に流入し、旧流路では湿潤環境が維持され湿生環境に生育する植物を確認。
- ・魚類調査の結果、せせらぎ水路にて多摩川本川とほぼ同様の多様な種を確認。
- ・アユの遡上も確認されており、工事区間の迂回水路として機能していることも確認。

※今後もモニタリングを継続していく。



備考

問い合わせ先 関東地方整備局 京浜河川事務所 河川環境課

電話番号 045-503-4011